

# 保育環境評価スケール 全園実施の取り組み

2025年度 多摩市保育協議会 保育士会

# 保育環境評価スケールとは？

- アメリカで開発された保育の質を測る尺度で、現在世界20か国以上で調査研究や自己評価に用いられています。多摩市保育協議会では、このスケールの翻訳者でもある埋橋玲子氏（現大阪総合保育大学 児童保育学部教授）と共に研修を重ねてきました。
- 保育室の環境構成・食事や保健衛生や安全・子どもと保育者のやりとりなど35の項目におよび、客観的な指標に基づき保育の振り返りや検討を行います。
- 客観的視点に基づいて「なぜそのような保育なのか」を保育者が話し合うことは、「保育者と子どもの関わり」と「関わりを通して育まれる子どもの学びに向かう力」を保障し、自分達の保育をみつめ、保育の質の向上につながっています。

# 保育環境評価スケール乳児版

サブスケール	項目
1. 空間と家具	1. 室内空間 2. 養護・遊び・学びのための空間 3. 室内構成 4. 子どもに関係する展示
2. 養護	5. 食事／間食 6. オムツ交換／排泄 7. 保健衛生 8. 安全
3. 言葉と絵本	9. 子どもと話す 10. 語彙の拡大 11. 子どもからのコミュニケーションへの応答 12. 子どもからのコミュニケーションの促進 13. 保育者による絵本の使用 14. 絵本に親しむ環境
4. 活動	15. 微細運動（手や指を使う） 16. 造形 17. 音楽リズム

サブスケール	項目
	18. 積み木 19. ごっこ（見立て・ふり・つもり）遊び 20. 自然 21. 数・量・形など 22. ICTの活用 23. 多様性の受容 24. 粗大運動（身体を大きく動かす）遊び
5. 相互関係	25. 粗大運動遊びの見守り 26. 見守り（粗大運動以外） 27. 子どもどうしのやりとり 28. 保育者と子どものやりとり 29. あたたかな身体的関わり 30. 望ましいふるまいの導き
6. 保育の構造	31. 日課と移行時間 32. 自由遊び 33. 集団での遊び

# 保育環境評価スケール幼児版

サブスケール	項目
1. 空間と家具	1. 室内空間 2. 養護・遊び・学びのための空間 3. 遊びと学びのための室内構成 4. ひとりまたはふたりのための空間 5. 子どもに関係する展示 6. 粗大運動遊びの空間 7. 粗大運動遊びの設備・用具
2. 養護	8. 食事／間食 9. 排泄 10. 保健衛生 11. 安全
3. 言葉と文字	12. 語彙の拡大 13. 話し言葉の促進 14. 保育者による絵本の使用 15. 絵本に親しむ環境 16. 印刷（書かれた）文字に親しむ環境
4. 活動	17. 微細運動（手や指を使う） 18. 造形 19. 音楽リズム

サブスケール	項目
	20. 積み木 21. ごっこ（見立て・ふり・つもり）遊び 22. 自然／科学 23. 遊びのなかの算数 24. 日常生活の中の算数 25. 数字の経験 26. 多様性の受容 27. ICTの活用
5. 相互関係	28. 粗大運動の見守り 29. 個別的な指導と学び 30. 保育者と子どものやりとり 31. 子どもどうしのやりとり 32. 望ましい態度・習慣の育成
6. 保育の構造	33. 移行時間と待ち時間 34. 自由遊び 35. 遊びと学びのクラス集団活動



# 2025年度の取り組み

## 小規模保育園をのぞく市内認可保育園全園で実施

- ・各園にて年間2回を実施
- ・1回目と2回目の間に経過を持ち寄り、振り返りと2回目に向けての情報交換を行う
- ・2回目終了後、変化等を含めた振り返りを実施

- ・ワーキンググループごとに他園のスケールに参加

全体のまとめ、保育の質の向上がわかる報告方法、次年度以降についての話し合いを実施

実施期間 2025年6月～2026年2月

第1回目の評価 2025年7月～10月

第1回目の振り返り 2025年11月

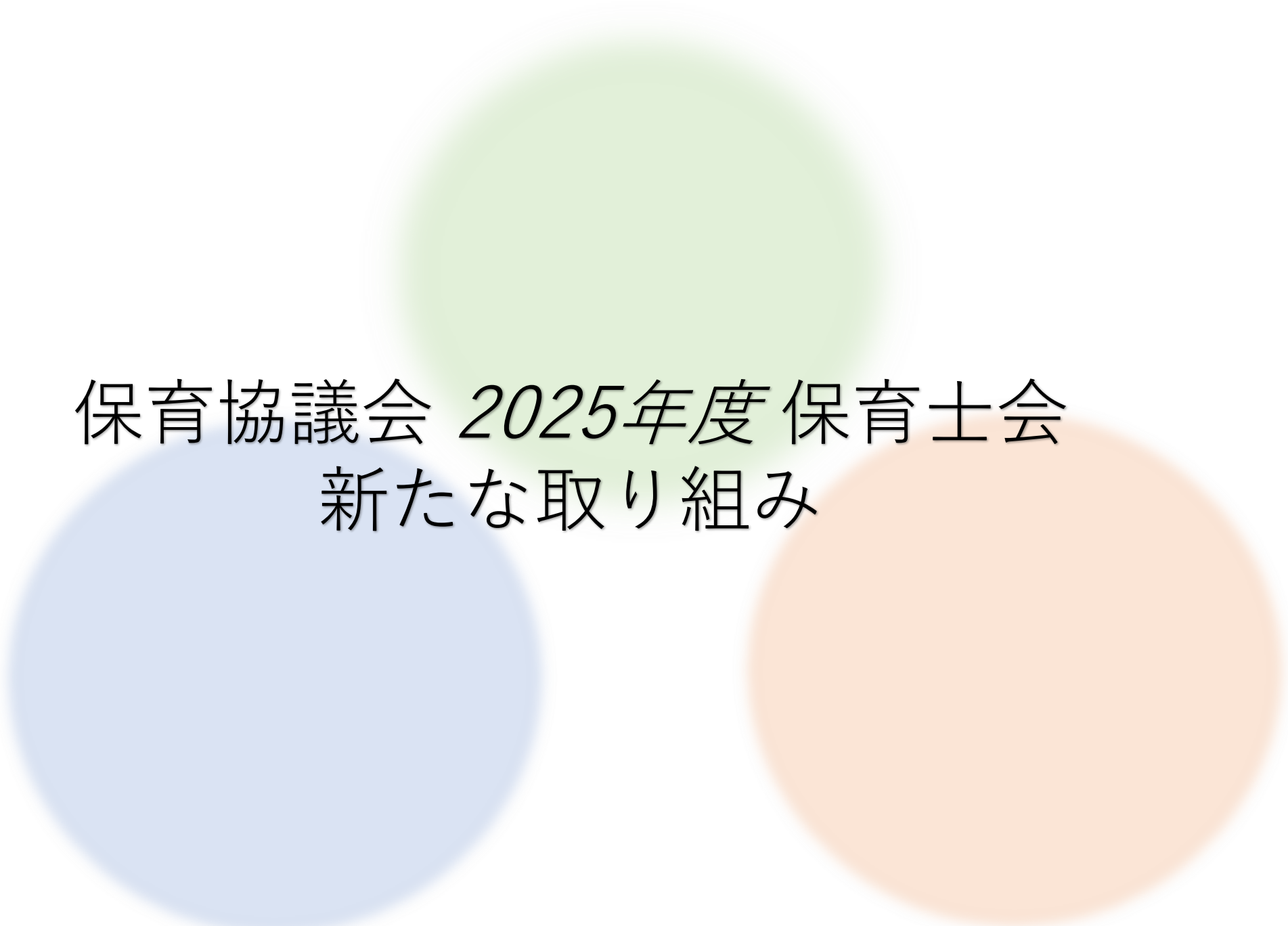
第2回目の評価 2025年11月～2026年1月

第2回目の振り返り 2026年1月

まとめ 2026年1月～2月

# ワーキンググループ

グループ①	桜ヶ丘第一保育園・多摩保育園・ピオニー第二保育園 みさと保育所・やまと保育園
グループ②	あおぞら保育園・あすのき保育園・おだ認定こども園 こぐま保育園・関戸みどりの保育園
グループ③	かおり保育園・こばと第一保育園・バオバブ保育園 ゆりのき保育園
グループ④	あおぞらぱれっと保育園・かしのき保育園 のびのびっこ保育園・やまとさくら保育園
グループ⑤	おだ学園保育園・こころ保育園・バオバブ小さな家保育園 みどりの保育園・りすのき保育園



保育協議会 2025年度保育士会  
新たな取り組み

## 今年度の新たな挑戦


ワーキンググループを変えずに実施することで、昨年度より進んだ取り組みを行うこととする。

スタイルは各グループに任せることとする



他園の評価に参加する枠組みを増やす（昨年度より多くの園において評価の際に他園の職員を受け入れる）

グループごとではあるが、昨年度より評価項目を増やす



保育協議会 保育士会  
振り返り

## Keep できたこと / 継続すること

- ・ 保育→検討会という一連の流れの中で自分たちが大切にしていることを言語化して認識できた。
- ・ 足りない部分を点数化することで、見直す部分がはっきりしてくる。  
(日課の見直しにつながった)
- ・ 数年にわたり継続していることで、視点が明確になる。また回数を重ねることで評価のつけ方もコツがつかめるようになり、理解につながっている。項目の内容の理解が深まった。
- ・ 他園からきてもらうことは、「見られる」意識よりも「学び」につながることで体感できるようになり、抵抗感が減った。
- ・ 園のホームページなどで、写真とコメントをわかりやすく見せられるようになった。

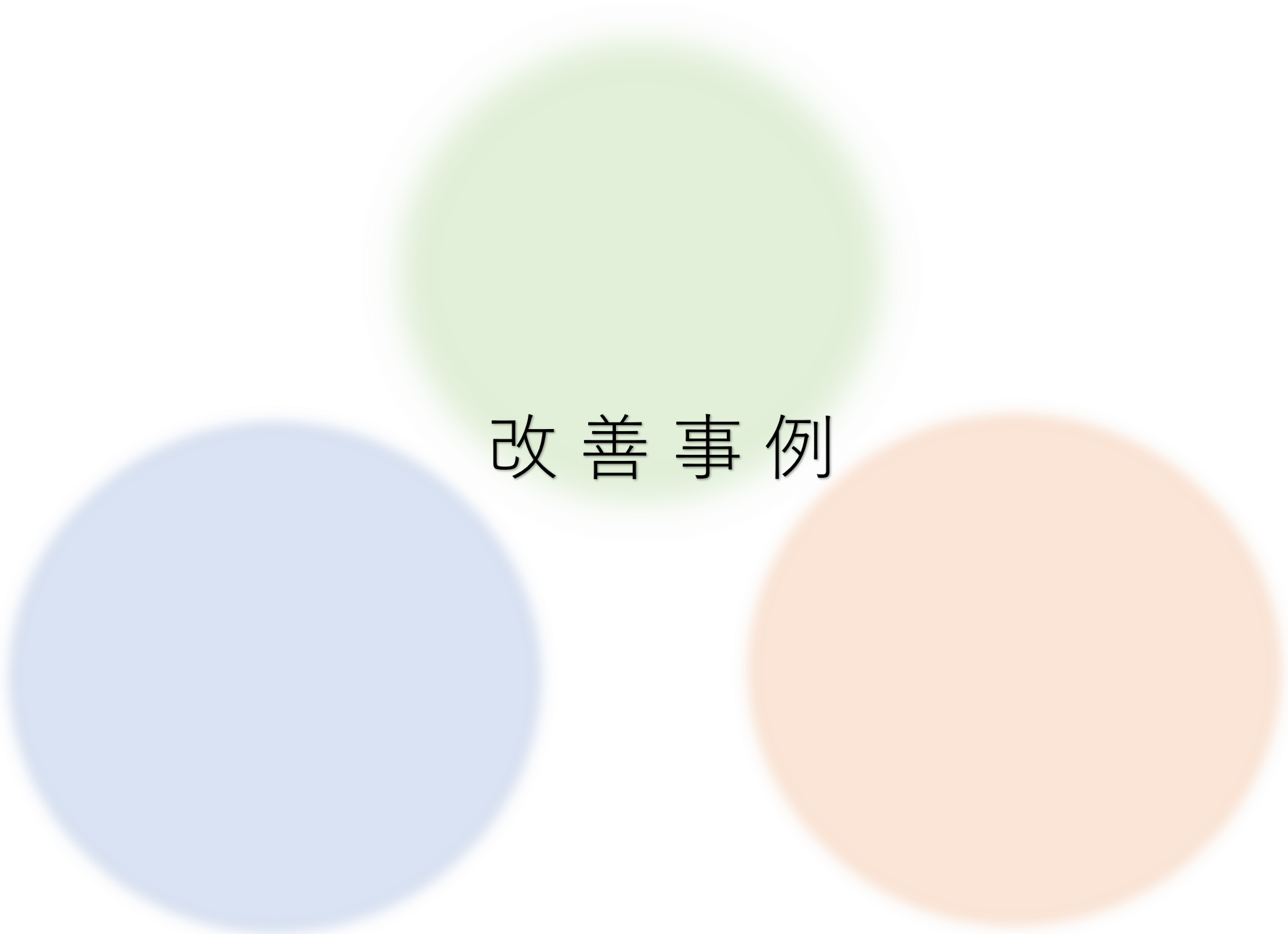
## **P**roblem 改善すべき問題点

### 回数を重ねていくための課題

- ・ 評価できる人を増やしていくこと
- ・ 他のワーキンググループのスケール実施の内容も知りたい
- ・ 他園での評価会に参加して得たことを園に持ちかえり、自園で進めていきたいが、話し合いの進め方が難しい（やれないのではなく、どう進めていくのか？どう話し合いをしていくのか？）→園内への伝え方

## Try 挑戦したいこと

- ・園内にスケールチームを作ってやっていきたい
- ・数年間同じワーキンググループでやってきたことで、いろいろな絆も生まれ、質問などもしやすい。またスケール以外のことでも学びがあった。一方で、他のグループの内容を知りたい。  
→来年度はワーキンググループを変えることも検討する
- ・保育士会のメンバーとしても繋がりをもとに、たまこどもフェスや3・4か月健診の取り組みにもつなげていきたい。



改善事例

# 乳児版サブスケール1 ▶ 空間と家具 項目3 室内構成

## 改善のポイント

遊びの空間が分けられていなかったなので、レール・ブロック・ままごとが混ざってしまい遊び込めていないという評価を受け、棚の配置を変えた。また、ブロックと積み木が入っている棚の前にマットを敷いて構造遊びが十分に楽しめるスペースを作ってレールを奥に移動して他の遊びと混ざらないように改善した。



## スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

評価を受けて、遊びが混ざってしまい集中して十分に楽しめていないことに気づいた。棚を移動して環境を変えたことで、ひとつひとつの遊びを十分に楽しめる環境を作ることができてよかったと思う。

# 乳児版サブスケール1 ▶ 空間と家具 項目3 室内構成

## 改善のポイント



異なる経験・あそびができるスペース、視覚的にどんなあそびのコーナーかが分かりやすいよう空間配置を見直し変更した。結果、以前よりも構造あそびや再現遊びが発展しやすくなり子ども達が能動的に・継続的に遊ぶ姿が増した。

## スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき



休息コーナー・再現遊びコーナーとして、以前よりも独立した空間を作ったところ、子どもがその場所を“部屋”として捉え、お医者さんごっこ・料理ごっこ等のあそびが自然発生しやすくなった。

「形」に関連した環境の用意を提案いただき「いろいろかたち」の遊具をだすと、形別に積み上げる等のあそびに集中する姿がみられた。

# 乳児版サブスケール1 ▶ 空間と家具 項目3 室内構成

## 改善のポイント



木レール遊びのスペースを、子どもが集中して遊べるように、家具で囲いました。囲うことで安心して遊ぶことができるようになっていくとともに、今度は家具の上のスペースでもレールをつなげ、ジオラマ遊びのように遊びが変化し広がっていきました。（一歳児クラス）

## スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・ 客観的な視点で保育環境を見直すことができました。
- ・ 様々な観点から保育を考えることが、子どもたちにとってよりよい環境になることが実感できました。

乳児版サブスケール 1 ▶ 空間と家具 項目 3 室内構成

乳児版サブスケール 4 ▶ 活動 項目 2 4 粗大運動遊び

## 改善のポイント



自由に体を動かして遊べる空間や、月齢が様々な子ども達が安全に遊べるような環境を考えていった。

手足などで色々な感触を感じられる、全身を使って遊ぶことができる等を意識した遊具や環境や遊具を用意した。

年度の途中で子どもの発達や様子によって室内空間の見直しをしていった。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

客観的に見てもらうことの大切さを感じた。

安全な室内空間や月齢に合った粗大運動や自由あそびの空間を考え、子どもの姿に応じて見直しを行っていった。

子どもが色々な感触を感じられるよう意識し遊具を考えていった。

(夏には水を入れたウォーターマットも用意した。)

## 乳児版サブスケール1 ▶空間と家具 項目4 子どもに関係する展示

### 改善のポイント

花火やお祭りの写真など季節のものではあったが、1歳児にとって馴染みのないものだったため、子どもが興味のあるものや散歩先での写真にすることにより展示物に興味を示すようになり、そのことについて会話することが増えた。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

今の子どもたちが興味を持っているものは何か、より深く考えるようになった。また、戸外で子どもたちが発見したものを展示していきたいと思う。

「スケール評価」を経験したことで、自分の保育を振り返るポイントが具体化された。



## 幼児版サブスケール2▶養護 項目9 排泄

### 改善のポイント

- ・ 保育室の中にトイレがありトイレへの出入が丸見えだった。  
おむつ替えの子もトイレ内のスペースが狭かった。
- ・ 家具で目隠しをすることでプライベートな空間ができ、プライベートゾーンへの配慮も充分となった。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・ 活動中の様子に気が散ることがなく落ち着いて排泄やオムツ交換ができるようになった。
- ・ 活動している子も同様にトイレのドア開閉や出入りに気が散る様子がなく、遊ぶことができる。
- ・ 保育者は見守りとプライバシーのバランスがとりやすくなった。



乳児版サブスケール3▶言葉と絵本

項目10 語彙の拡大

乳児版サブスケール4▶活動

項目15 微細運動（手や指を使う）



### 改善のポイント

色々な素材（画用紙・折り紙・スタンプなど）、色々な技法（のりで貼る・ちぎるなど）を使って季節を感じられるような制作をしている。ちぎってからのりを付けて貼ったり、指先でスタンプしたり、工程多い物も集中して取り組んでいた。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

制作した物を展示することによって、子どもたちがいつでも見られるようにしている。「ピンクのお花きれいだよ」「お花たくさん咲いてる」「これ〇〇が作ったんだ」と子ども同士で会話したり「このお花の名前は桜って言うんだよ。春になって暖かくなってから咲くんだよ」「早く春になってほしいな」など、保育士との会話も増え語彙が広がっている。



## 乳児版サブスケール4▶活動 項目14 絵本に親しむ環境

### 改善のポイント



少人数で絵本をゆったり読めるようなスペースを作り、落ち着いた雰囲気の中で絵本を見ることができるようになった。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

ただ絵本コーナーを設定するだけでなく、絵本の内容は季節にあったものが置かれているか、冊数はクラスの子ども全員にとって十分かどうかなどを見直すことができ、改善につながった。

## 乳児版サブスケール4▶活動 項目14 絵本に親しむ環境

### 改善のポイント



- \* 本棚を増設し、子どもの見やすさ・選ぶ楽しみ・季節感に配慮し、落ち着いて座れる環境へと改善しました。
- \* 縦収納から横収納（平置き）へ変更し・マットや低い長椅子でコーナー作りをしたことで、絵本を楽しむ姿がとっても増えました。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

お友達が読んでいる姿を見て「自分も」と本棚へ行き、選んでは「よんで！」と催促。「次読んであげるね」と言われ、大事に抱えて待ち「おまたせ」と読んでもらい満面の笑み☺

読んでもらう心地良さをすることで、待つという社会性も身に付き、落ち着いて楽しめる環境を整え、豊富に内容を取り揃えることで、絵本への興味関心が大いに高まりました。

## 乳児版サブスケール4 ▶活動 項目15 微細運動（手や指を使う）

### 改善のポイント

スケール前は広い空間で微細の活動を行っていたが、棚やラティスを使用してじっくりと遊べる空間を設ける。他児の活動が気になって注意散漫になってしまう子も、じっくりと取り組む姿が見られるようになった。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

環境を変えることによって子どもが遊びに対して取り組む意欲が変わった。クールダウンや個別の活動にも使用することができた。



## 乳児版サブスケール4 ▶活動 項目15 微細運動（手や指を使う）

### 改善のポイント

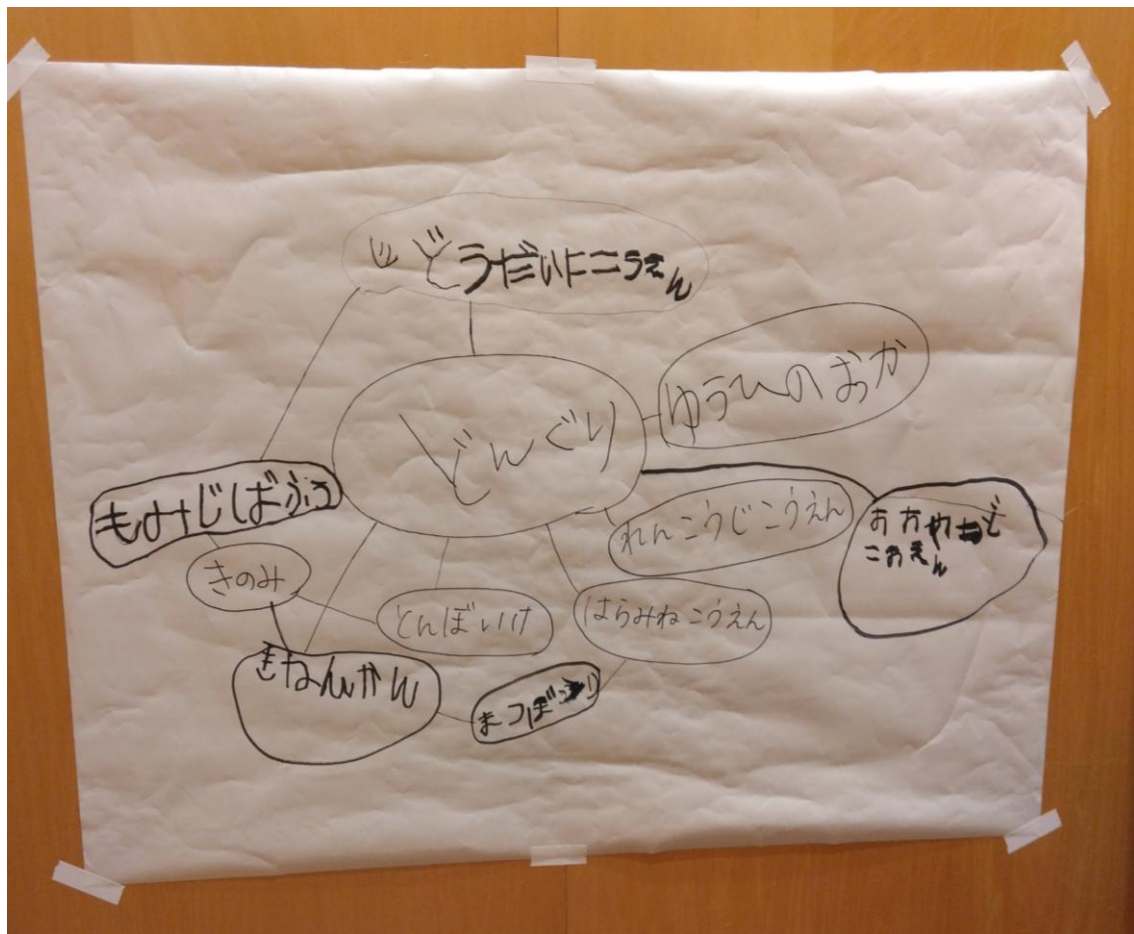
乳児コーナーに玩具がなかったため、興味や発達に応じて遊びを設定できる環境作りを行った。  
触れる・つまむ・引っ張るといった姿が見られ、指先を使った微細運動の経験につながっている。  
また、繰り返し遊ぶ中で興味の広がりや集中する姿も多く見られるようになった。



### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・環境を変えたことで、つまむ・引っ張るなど、指先を使った動きが自然に引き出されている。
- ・繰り返し遊びを行うことで、興味を継続させながら集中する姿が見られた。
- ・落ち着いて遊びこむ姿が見られ、安心して過ごせる環境づくりにつながっていた。
- ・環境スケールを通してたくさんの気づきを得られ、職員間でも話を深めるきっかけとなったのでやってよかった。

改善のポイント



どんぐりまつりに向けてどんぐりを拾っている中で、どんぐりがどこに落ちているのかという話からどんぐりマップを作ってみようという話になり、朝の集まりのなかでウェブを子どもたちと行った。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・散歩先でのことを思い出しながらどこにどの実やどんぐりが落ちていたのかたくさん意見がでていた。
- ・子どもたちが自分たちで文字を書き、「この字はどうやって書くんだろう」と分からない際には調べたり、友達に聞いたり文字に親しむこともできていた。



### 改善のポイント

今月から編み物が始まった。「やりたい！」と積極的にやりたがる子が多く、始めると慎重に手元を見て、手先を使い、細かい作業を丁寧に行えている。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- だんだんとでき始め、長くなってくるマフラーに「できてきてる」と嬉しそうに眺めたり、友達と長さを比べたりする姿も見られていた。
- 「まだやったことない。どうやってやるの？」と話す友達に対しても、「こうやってやるんだよ」と丁寧に優しく教えてあげる子どもの姿もあった。

## 幼児版サブスケール4 ▶活動 項目19 音楽リズム

### 改善のポイント



4歳児クラスの部屋に、楽器に触れる機会がなかったので、電子キーボードをお部屋に置き、ドレミの音階を鍵盤に書いた。

音階の楽譜をみながら弾いてみたり、友達と音が変わるのを楽しんでいた。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

ピアノに触れることで、音階を意識して歌えるようになりました。ピアノを習っている子が友達に教えたりと学び合う、教え合う姿が新鮮でした。

初めてピアノに触れた子が、一生懸命頑張って

「かえるの歌」が弾けるようになり、みんなの前で発表し、拍手をもらえ、嬉しそうでした。一つの楽器をきっかけに様々な成長があり新しい発見もありました。

## 乳児版サブスケール4 ▶活動 項目19 ごっこ(見立て・ふり・つもり)遊び



### 改善のポイント

ままごとコーナーを作った。

人形やスカートを出してごっこ遊びができるようにした。

その結果…

子どもたちがスカートなどを身につけ『かわいい』と満足したり、食材をお皿に入れ『どうぞ』とふるまったり、食べる姿が見られごっこ遊びに発展した。



### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・環境を見直すきっかけとなり、クラス内でしっかりと話し合って環境を整えることができた。
- ・自分の保育を見直すきっかけにもなり、良い刺激となった。
- ・自園でも定期的に行い、保育や環境の振り返りを行っていけると良いと思った。

# 乳児版サブスケール4 ▶活動 項目19 ごっこ(見立て・ふり・つもり)遊び

## 改善のポイント

- ・棚やかごにそれぞれ写真をつけ、片付けがしやすいよう、環境を見直した。写真をつけたことで子どもたちだけでスムーズに片付けを行っている。
- ・コーナーの区切り方を改善したことで、他の遊びが気になることが減り、以前より集中して遊びこめることが増えた。

## スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・環境の見直しや活動の流れなど、どちらも保育者同士の連携や計画を密に行っていくことの大切さを感じた。
- ・子どもたちが生活しやすいように環境を整えることで保育者の声掛けが減り、子どもたちが自分で考え行動できることに改めて気づいた。
- ・スケールの様々な項目を読むことで、普段の自分の保育を振り返り、見直すことを意識できたので、良い機会だった。



## 乳児版サブスケール4 ▶活動 項目19 ごっこ(見立て・ふり・つもり)遊び

### 改善のポイント

子どもたちの興味に合わせてままごとコーナーを設置し、量や種類を増やしたりエプロンや三角巾、スカートやバック等様々な扮装用の小物を用意したりして遊びが広がるようにした。



### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

ごっこ遊びを通して保育者やまわりの人との言葉のやりとりが盛んになった。また、微細遊びにつながる玩具も取り入れることで指先の発達を促すような経験も多くなった。

## 乳児版サブスケール4 ▶活動 項目19 ごっこ(見立て・ふり・つもり)遊び



### 改善のポイント

再現遊び、見立て遊びが盛んになり、おままごとコーナーで遊びたい子が増えてきた。他の遊びとの混在が課題となり、棚を使って場を仕切ることで、コーナーとして明確な区切りをつけた。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・ 棚で区切られた空間ができたことで、おままごとをその場で楽しむ子が増えた。棚の上で料理することを想定して設定したが、子どもたちの中にはカウンターキッチンのように棚を挟んでやり取りをする子も出てきて、新たな遊びの展開が見られている。

- ・ 全体的に広い印象を受ける室内であったが、棚をひとつ置くだけで雰囲気が変わり、子どもたちの遊びにも変化が見られ、環境が影響するものの大きさを改めて感じた。

## 乳児版サブスケール4 ▶活動 項目19 ごっこ(見立て・ふり・つもり)遊び



### 改善のポイント

ごっこ遊びの中に多様性をはっきりと表す例がなかったため、髪の毛の色が違う人形を出しました。保育中にも2つの人形の髪の毛の色の違いや、子どもと人形、大人と人形、子どもと大人と髪の毛の色、肌の色等を意識した声掛けが生まれていった。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

多様性を身近に考えていなかったことに気づきました。外国籍の子や見た目が違う子どもがクラスに在籍するときだけの意識になっていたと思います。異国の文化等も学んでいけるきっかけになりました。

## 幼児版サブスケール4 ▶活動 項目20 積み木

### 改善のポイント



- シンプルなレンガ積み木をもっと子どもたちと楽しみたいと考え、今までの倍の量を部屋に用意した。子どもたちが複数で遊ぶのに十分な量になった。
- 積み木の収納方法に変更した。積み木を入れた箱は棚にしまわず、床に置きっぱなしで見えやすいようにした。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき



- 友だちが作っている作品を見て「どうやって作るの?」「一緒にやってもいい?」などのやりとりが見られた。
- 友だちの作る作品に刺激を受けて、並べ方や積み方にバリエーションが増えていった。
- 船やホテル、階段、迷路などイメージを膨らませて遊ぶ姿があった。

## 幼児版サブスケール4 ▶活動 項目20 積み木

### 改善のポイント



・積み木で遊んでいる姿に関心を持つということがどういふことかを振り返り、必要な積み木の種類や空間を見直した。子どもたちが創造性を広げたり、イメージを形にすることの喜びや達成感を感じられる声掛けを意識することで時間をかけて作ったり、友だちと協力して作り上げることが増えた。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき



・積み木だけでなく、丸や四角の様々な板なども取り入れながら積み木を並べたり、高く積み上げる中で椅子や、脚立なども使ってより高いものを協力して積み上げる中でお互いに声を掛け合ったり、イメージを共有する姿が見られるようになった。

・電車が好きな子たちは牛乳パックなども使用して新幹線などを作り線路やマンションなどをイメージして町を作るなどして会話が広がったり、喜びを共感しあう姿も見られた。

## 幼児版サブスケール4 ▶活動 項目22 自然・科学

### 改善のポイント



昨年度は不作だった米作り。水やり、土の様子を観察、イネの育ち具合など子どもたちと話し合いながら育てることができた。稲の観察画、稲刈り、脱穀を体験し、自分たちで育てた米を食べることで作ることの大変さや楽しさを味わうことができた。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき



子どもたちと作り方を調べたり、どうやったら育てられるのかということと一緒に考えられたことで、今後の活動にも反映することができると感じた。

稲刈り、脱穀などの体験をすることで子どもたちにも新たな発見や気づきがあったことは良かった。

## 幼児版サブスケール4 ▶活動 項目25 数字の経験



### 改善のポイント

物を数えたり、数字を見て読もうとするなど、興味を持つ子が増えている。数字の読みとその意味の結びつきを遊びながら知ろうとしている。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・口では、1から10まで順に数えることができても、物と一致させながら数えることが難しかったりする。何度も繰り返すことで数え方がわかったり、理解できた子が、「おしえてあげようか」と声掛けする姿もあった。

## 乳児版サブスケール5 ▶ 相互関係 項目 27 子どもどうしのやりとり

### 改善のポイント



お店屋さんごっこをするのに、レジが必要だということもたちのために牛乳パックで台を作った。店員と客が明確に分かれたことで、やりとりが増えた。よりリアルな言葉のやりとりも見られ、いらっしゃいませとありがとうございました以外でもメニューに見立てたものを置いたり、実際に飾ってある写真を基に作った玩具を使ったやりとりもできた。

### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

こども同士のやりとりを見守ることで、こどもたちがどんなイメージを持って遊んでいるのかがわかった。玩具を揃えたり、環境を整える（変更する）ことで、こどもたちの遊びの展開にも繋がると感じた。

2歳児でも幼児クラスにあがることを考えたら、よりリアルはやりとりを楽しむために環境を見直しながら保育をしていきたい。

乳児版サブスケール5 ▶ 相互関係 項目27 子どもどうしのやりとり  
項目28 保育者と子どもとのやりとり



### 改善のポイント

- ・室内のコーナー設定を空間を利用して行い、子どもがそれぞれの興味の中で主体的に遊べる工夫をする。また保育者は子どもの遊びに無理に関わろうとせず見守り、子どもの語りかけなどに肯定的に関わるようにした。



### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

- ・今までもコーナー遊びを行ってきたが、少人数でじっくり遊びこむことができていなかったため、少人数に対して、保育者一人が見守り、さらに声のトーンを落として関わるよう心掛けた。子どもたちがとても落ち着き、やり取りを楽しめている。全体的にも目を向け、保育者同士が連携を上手く取り、安全な環境作りにも繋がった。
- ・四季折々のイラストや写真を掲示すると子どもたちが大喜びで見しており、子ども同士、子どもと保育者が季節感を味わえる歌や会話を楽しむことができています。今後も続けていきたい。

乳児版サブスケール5 ▶ 相互関係 項目27 子どもどうしのやりとり  
項目28 保育者と子どもとのやりとり

改善のポイント

2歳児の発達段階にあった関わりを担任と保育補助で、改めて確認し共通認識を持った。見守る関わりと仲介に入る関わりを日常的に大人同士で話し合うことを位置づけた。

スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

2歳児は並行遊び→2～3人で遊ぶ姿が多くなる、遊びの変化が見られる発達段階。

子ども自らが遊べるような環境設定と大人は、少し距離を置いて見守る関わりが必要だと気付けた。



# 幼児版サブスケール▶保育の構造 項目35 遊びと学びのクラス集団活動

## 改善のポイント

### 【3.4.5歳児クラス】

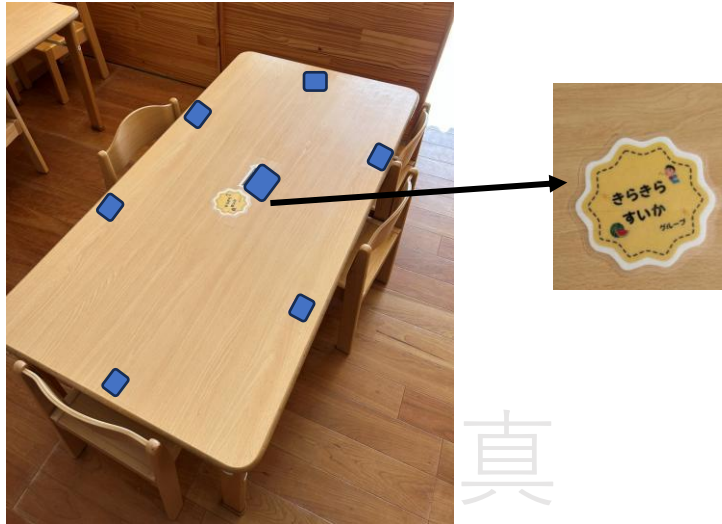
グループ決めをして少人数での活動や生活行為を行えるようにした。

子ども達自身で、グループ名を決めたことで意識が高まったように思う。

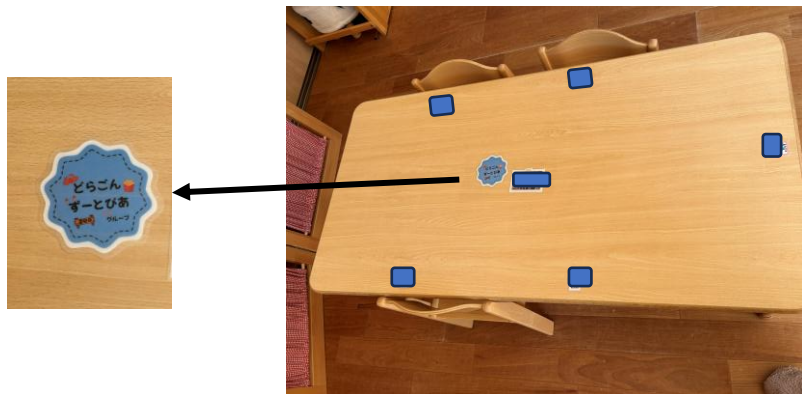
### スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

他園に見学に行かせてもらい、3.4.5歳児クラスでも少人数で活動を行っていることを学び取り入れた。普段関わりがなかった子との関わりが見られたり、落ち着いて生活行為も行うことができる。

普段、年長児がグループ活動を行っている姿を見ており、グループ活動のイメージができていた様子だった。来年度は、年度始めからグループ活動を行うことで友達との関係性がどのように広がっていくのかを見ていきたい。



真



## 改善のポイント

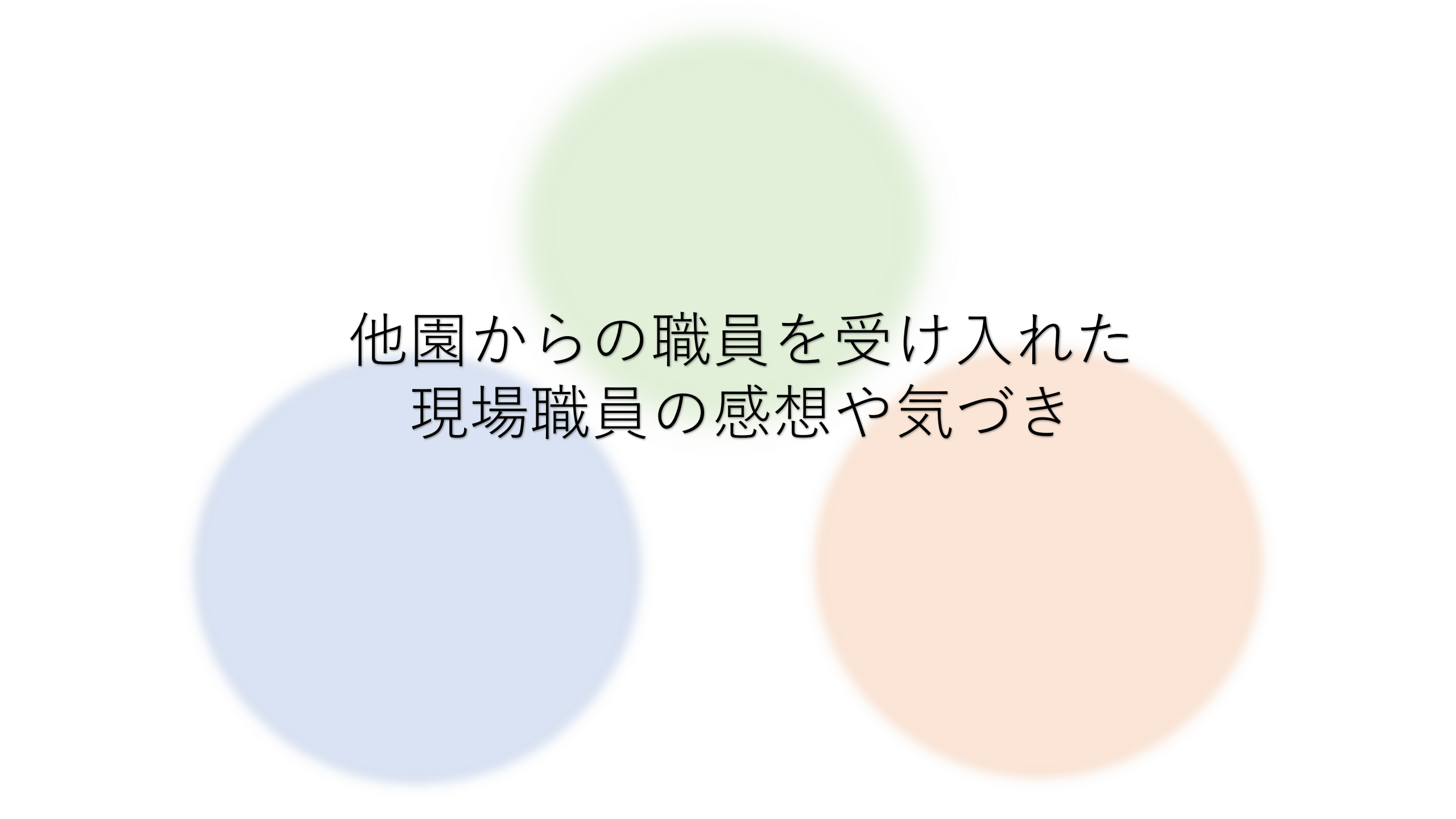
### 【0歳児クラス】

帽子を取ってしまう事が多く、取ってしまったあと外すのかもう一度つけるのかを再度検討して、外した時に「被る？」と聞き、嫌なら被らなくてもよいでクラスで統一した。

## スケールを実施しての現場保育士の感想や気づき

1歳児になると、被る習慣が出来ていき自分でも被ることが出来るようになっていくことと、感覚が嫌な子もいるので、園で統一よりクラスでしていくようにした。

一人一人に合わせて、無理強いせずに行っている。



他園からの職員を受け入れた  
現場職員の感想や気づき

## 【あおぞらぱれっと保育園】

- ・環境評価スケールで観察されることが初めての新人職員や補助職員からは、当初は緊張やプレッシャーを感じるという声もあがっていた。しかし、実際に取り組んでみることで、自分たちの保育を振り返る良い機会となり、これまで気づかなかった子どもの姿や関わり方について客観的に見直すことができた。また、職員同士で観察結果を共有し合うことで、保育の意図や工夫についての理解が深まり、細かな部分まで丁寧に話し合うことができた。
- ・それぞれの職員の視点の違いに触れることで新たな気づきが生まれ、日々の保育の質の向上につながる有意義な機会となった。

## 【あすのき保育園】

- ・室内構成に関して、棚の高さや遊具の数等について他園の保育士の感想を伺うと、自園で所有していない備品や遊具を用いての改善案等も聞くことが出来、大変勉強になった。
- ・自園でも他クラスの職員に観察・保育を評価してもらう機会があるが、環境評価スケールは沢山の項目別に客観的な条件で評価してもらうため、普段の観察会では得られない視点で保育の環境を考えることができた。

## 【おだ認定こども園】

- ・他園から自分たちの今の保育がどう見えるのだろうか…という不安やプレッシャーを感じる部分もあったが、環境スケールに向けて部屋の環境や保育者の動きや声掛け、どのような視点で部屋の設定を整えていったらいいかということを見直すきっかけとなった。当日の子どもたちは、見知らぬ人が数人部屋に入っていることにもっと反応するかと思ったが、意外と自然な姿で過ごすことができていた。
- ・他園からの目線で、振り返りをしながら「多様性についてどんな風にしたらいいか」「室内で粗大遊びのアイデア」などの情報交換をすることができ、その後の保育で実践することができたり、恵まれた環境(特にテラスの環境や遊びは高評価)であることを実感した。全体として、気持ち的には緊張したが客観的に見てもらうという点で良かったのではないかと思う。

## 【おだ学園保育園】

- ・自園に研修に来てもらうことで、園内だけで行っている時よりも客観的な視点が加わり良い点も改善点も明確になった。
- ・検討会で他園の先生方の意見を聞くことで気づかされることが多く、さらに自分たちの保育を良くしていこうという意識が高まった。

## 【こぼと第一保育園】

- ・他園からの評価に緊張することもあったが、自分たちが取り組んでいる保育に良い評価をしてもらい、自信を持つきっかけにもなった。また、改めて説明することによって自分たちの保育を振り返るきっかけにもなった。

## 【こぐま保育園】

- ・子どもたちがリラックスしてできるようクッションややわらかいものがあるか、多文化を感じるものがあるかなどの視点を意識するきっかけになり、さらに環境を整えていくことにあたって他園からの意見や「うちではこうしてるよ！」と実践例をきくことができとても参考になった。
- ・自分たちの中で当たり前になってしまっていたことに対して、いつもと違う視点をもたらえることで気づきが増えて、保育を振り返ることができてよかった。

## 【桜ヶ丘第一保育園】

- ・子どもと大人の関係が、信頼関係がしっかりと積み重ねられていて、穏やかで安心安定してよく遊んでいると評価されて、とても自信になった。
- ・他園に、忌憚ない意見や分析考察を伝えるのは、躊躇する気持ちもあるかな…とも感じた。保育を発展させるためにも、保育環境評価スケールを使って意見交換がもっと活発になるように経験を積んでいくことが大事だと感じた。

## 【多摩保育園】

- ・月齢差が大きい為、玩具の提供方法等、検討を重ねていた所で、他園の職員に観察してもらうことで、素材や量などあらためて細部まで見直すことができました。
- ・子どもへの関わり方や大人のふとした動きについても、良い点・改善点共にあらためて知ることができ、これまでの自分達の保育についての自信及び向上につなげる為の改革に向けることができた。

\*他園の職員からもらった意見は、より励みと気づき・新しい視点につながると思う。

## 【のびのびっこ保育園】

- ・緊張はしたが、他園の保育士の意見を聞くことができるよい機会となった。
- ・子どもたちもいつも以上に静かで緊張していたように感じた。
- ・意見をもらい、更に見直すきっかけになった。
- ・普段やっている保育を（声のトーン、子どもとの関わり方など）評価してもらうのは、自分自身では気が付けないこともあるので、やってもらえてよかった。  
また、自園の良いところにも気づくことができた。
- ・他園を見る機会があり、環境設定など参考になった。特に大人の声の大きさについては、自園でも共有し取り組んでいる最中なので、良い方向に向かうと良い。
- ・他園の職員に見てもらったことで、自園では出なかった気づきや意見を聞くことができた。その意見について改めて見直したり、考え直すこともでき、とても良い機会となった。実際、意見をもらった『おむつ替えスペース』については、早急に見直しを行い、環境を整えることができた。
- ・他園のスケールに参加し、環境の整え方、あそび込める環境づくりがとても参考になった。自園でもできることは取り入れ、子どもたちがより楽しんで過ごせる環境を考えていきたい。

## 【関戸みどりの保育園】

- ・他園の職員も自園の職員と同じく低い評価が出た。自分たちの保育の弱いところを知ることができた。
- ・評価スケールだけではなく、園の保育の雰囲気や保育者の関わり方も聞くことができてうれしく思った。
- ・他園の職員が、常に笑顔で子どもに接する入職1年目の担任の姿が好印象との評価があり、1つの自信につながったように感じる。
- ・どの園の職員も同じ「評価軸」で見るため、疑問点・改善点を具体的に他園と情報交換でき、安心感にもつながっている。

## 【やまとさくら保育園】

- ・たくさん褒めて頂けて、自信につながった。
- ・かしのき保育園の方のアドバイスが的確だった。  
→アドバイスを基に、クラスと話し合いを行い改善に繋がった。
- ・話し合いの時に、もう少し他園の方と情報共有をすればよかった。

## 【みどりの保育園】

- ・自分たちでは当たり前になっていることが、新しい視点があることで、さらなる改善につながっていくことを実感した。また、自分たちの課題について他園ではどうしているのかを聞くことができ「やってみよう」と思えたのもよかった。
- ・気づけなかったことを評価してもらうことで、子どもの目線に立ち返って考え、クラス内で話し合う機会につながったのがよかった。
- ・年度内に2度行うことは改善のためにとっても有意義であると思った。



次年度へ向けて

こんなことをやっていきたい！

1. 他のワーキンググループの内容も知りたい！

2026年度は、ワーキンググループの組み直しを行う

2. 園へ持ち帰ったときの自園での話し合いの進め方を学ぶ

ファシリテーションについて再度学ぶ